

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

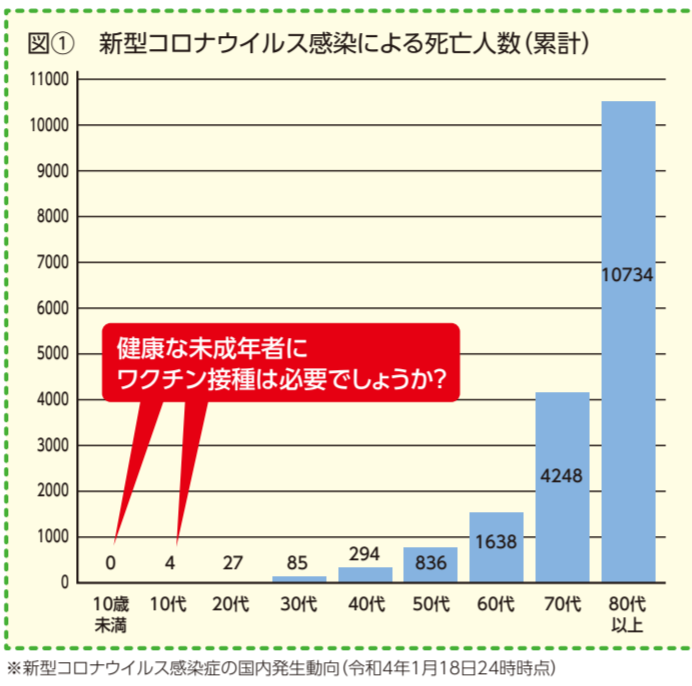
厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重度の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいない。重症化もほとんどない。

これまでオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。

ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを受けることによって、多くの重篤者や命の危険が切迫している患者（こども）や死亡者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチン接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているところを発見されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1606人にも上り、そのうち**

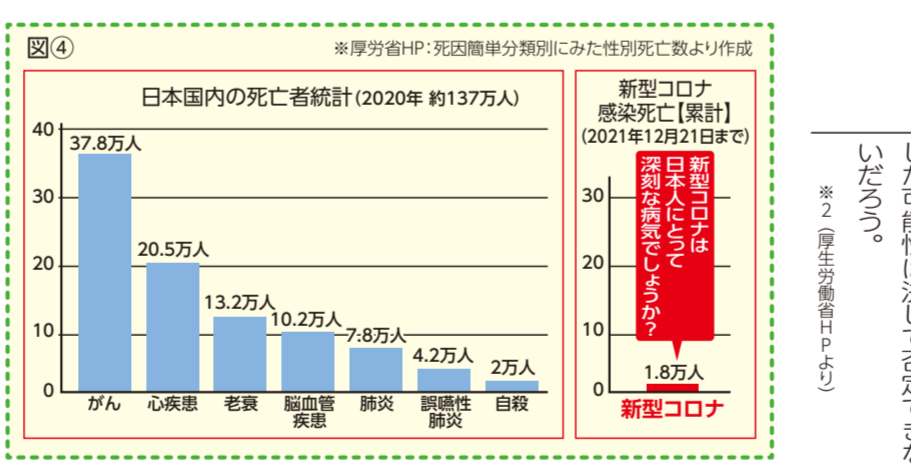
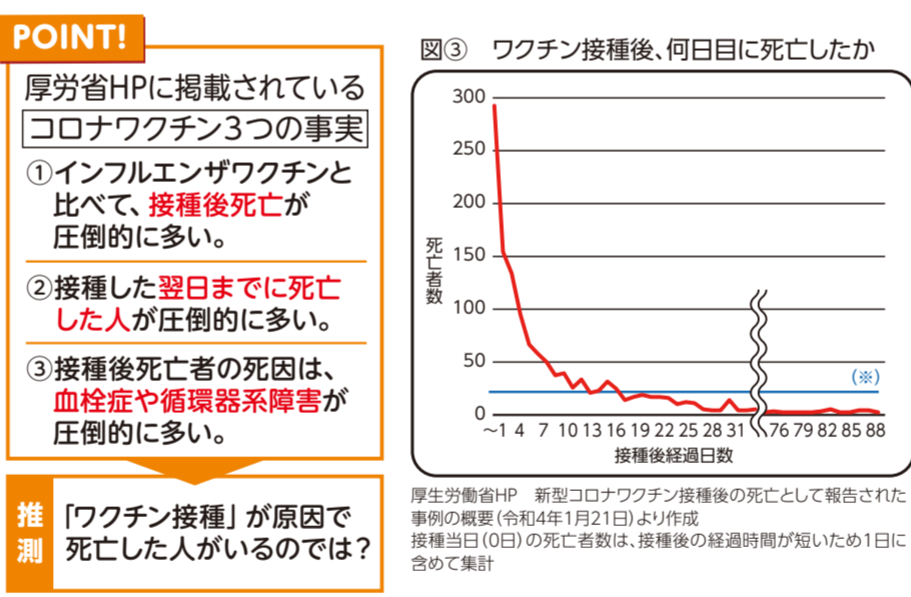
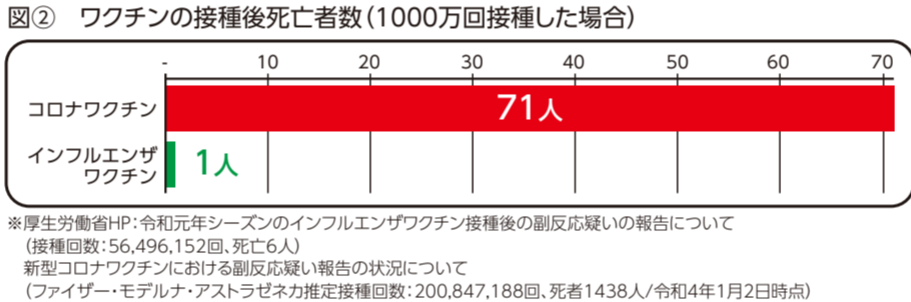


しかしその目的のために、子どもや若者に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない?

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人（ファイザー製1377人、モデルナ製66人、アストラゼネカ製1人）に達している。しかし「ワクチン接種現場で突然死亡した場面も多いため、厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り、**接種が原因で多くの方**

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人（ファイザー製1377人、モデルナ製66人、アストラゼネカ製1人）に達している。しかし「ワクチン接種現場で突然死亡した場面も多いため、厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り、**接種が原因で多くの方**



しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にはたまたまた大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか? (図③) その理由は「**たまたまの死亡**」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、**青線**のように、ある程度ならされた分布になることが予想される。

コロナワクチンの接種そのものが原因で多くの人が死亡した可能性も考えざるを得なくなる。そして、この可能性は、ワクチン接種後の死亡者を「接種後、何日目に死亡したか」で分類すると、さらに興味を帯びてくる(図③)。もし本当に死亡した人がたまたまその日に何かの病気で死亡したのであれば、毎日の偏りにはまだ明らかにはされていない。何らかの**有害性**があり、それが原因でこれまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。

しかし実際には接種した翌日までに死亡した人が圧倒的に多く、**赤線**のような極端な分布になる。**この統計はワクチン接種と死亡との因果関係を示唆しているのではないだろうか。**

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉

経したが生理が再開したという副反応まで報告されていた。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

ワクチン接種に関しては、これ以外にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数ヶ月の間にいくつも起こっている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の臨床試験の実験結果だからだ。それは人体への長期的な影響が誰も予見できないことを意味する。

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことは留意が必要である」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続を特別承認で省略してしまつたため、厚労省も今後数年に渡つて何が起るか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

これがいつか前出の井上正康大阪府立大学名誉教授は「ワクチン接種が始まれば報告されるため、不妊の根拠が報告されれば、**これから数年、数十年**後のことである。何らかの異変

最後に想像してほしい。もしあなたの子もや孫がワクチン

接種後に突然亡くなったたり重大な健康被害に遭つたり後遺症が残つたりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑つてしまつたのではないだろうか? また「因果関係なし・不明」という発表に納得できるだろうか? そして子どもに接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか? そのような悲しくてやりきれない思いをしている親御さんが実際に何人もいるが、これは決して他人ごとではない。

※ここでの内容は、主に厚生労働省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。

おすすめ最新書籍(参考文献)

- 「まんがで分かりやすく解説!」ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4 (扶桑社) 著書:小林 よしのり (2021年11月18日発行)
- 「コロナとワクチンの全貌」(小学館) 著書:小林 よしのり/井上 正康 (2021年9月30日発行)
- 「新型コロナ騒動の正しい終わらせ方」(方丈社) 著書:井上 正康/松田 学 (2021年12月1日発行)

「簡単!10分で分かる 新型コロナワクチンの危険性」

井上正康先生講演会動画

「新型コロナワクチンについて」特別講座 井上 正康先生

新規感染者数比較 (人口100万人あたり7日間移動平均)

ワクチンには 本当は感染予防効果があるのでしょうか?

新型コロナは他国と同じくらい 日本人にとっても深刻な病気でしょうか?

出典:Our World in Data(2021年12月25日に利用) <https://ourworldindata.org/coronavirus#coronavirus-country-profiles>

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 151,856,225円(2月21日19時30分時点)

ワクチン接種後につらい症状が出た場合は…

すぐに「肺CT画像と血中Dダイマー」を検査し、不幸にも亡くなられた場合は「病理解剖」を依頼しましょう。ワクチン接種と副作用の因果関係は、情報不足で「不明」と処理されることがほとんどですが、「予防接種健康被害救済制度」を適用してもらうためにも強くお勧めします。

詳しい情報は、こちらからもご覧頂けます▶ <https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記二次元コードより 意見・ご感想をお寄せください mail@dbank.jp